

## ● 中神熊野神社 春祈禱 奉納獅子舞

平成26年度の「春祈禱」は、4月19日・20日に開催されました。20日の熊野神社本祭りは、低気温の日中でしたが曇り時々晴れとなり、上々のコンディションに会場は多数の見物客が集まり、春祈禱奉納獅子舞を盛り上げました。



### 熊野神社境内に集まる見物客

獅子舞では花笠をかぶり顔を見せることのない、ささら摺りの女の子一同。最後の太刀懸かりだけは花笠をはずして、顔を唯一見せて舞台に立つ。三匹獅子舞で花笠の役割は、獅子の露払いとされています。また大地に根付いた自然な姿、穢れ無き清らかさも表現しています。いずれにしても華やかでありながら脇役のささら摺りに敬意を評して拍手。



素顔のささら摺り女の子

### < 中神の三匹獅子舞 物語 >

中神の獅子舞は江戸時代末期に定着したと伝えられています。12通りの舞、最後の演技で必ず太刀懸かりが披露されます。このとりを勤めることは、その年の一番役者の称号を授かったということになります。今年度、太刀懸かり大頭を演じた石田清さんは、59歳になります。石田さんが獅子舞を始めたのは42歳でした。その後、石田さんは熱心に獅子舞の稽古に励み、順調にその演舞は上達していきました。しかし、何事にも順調だった石田さんの体に異変が起こりました。今から3年前突然の病に襲われました。診断の結果、腫瘍が判明。すぐに手術となり、幸いにして健康にはなりましたが、今までの様には体が動かなくなりました。そのような状況の中、一時は獅子舞をやめようと思ったそうです。しかし、獅子舞保存会会長、西川芳雄さんに激励され、もう一度がんばってみようかと決心しました。昨年は病後にもかかわらず、獅子舞奉納に参加、演舞ができなくても、獅子舞保存会を陰ながら支えていこうと決意したそうです。



### 中頭 斎藤和文さん 大頭 石田清さんの太刀懸かり

西川さんは、そんな石田さんの心意気に応え、今年度の太刀懸かり獅子大頭に推薦しました。この話に石田さんは「太刀懸かりなど、とても無理。」最初は本気にしませんでした。しかし、今年に入り、西川さんが同じ話をされ、その想いを肌で感じ、鳥肌がたったそうです。本来、獅子舞は子どもの頃から稽古を積み上げ、限られた者だけが勤める太刀懸かり大頭。石田さんにとって現在の年齢とキャリアでは、ありえない役どころでした。しかし石田さんが太刀懸かりに挑戦する決心が着いたのは今年1月初旬のことでした。2月に入り、猛稽古が開始されましたが、年齢的に難易度の高い太刀懸かりの稽古は、毎回汗だくになるほどの厳しいものでした。しかし、日頃から地道な稽古の積み重ねにより、4月20日、本番の舞台では、みごとに獅子大頭の責務を果たすことが出来たのです。2014年度の太刀懸かりは後後の語り草となることでしょう。

広報部会 / 幡垣 誠



獅子頭と石田清さん